

AERO

予測その17

勇気を出して 挑戦だ G.T.DTMルックに



トライアルプロジェクトのインプレッサワゴンはスタイル、チューニングとともにアグレッシブという言葉に尽きる。

別に「ゴン」のスタイリングに限ったことじゃないんだけど、今年のエアロのスタイリングのカギを握っているのは、実はフルキットでもホイールでもなくて、やっぱしDTM風のオバフェン仕様だと思ふね。

ところで、DTM仕様を知らない人の為に、DTM仕様とはいつかないかなるもののかをチラッとだけ説明しておくけど、基本的にはフロントリップからフエンダーアーチとサイドアンダーを通して、リアのアンダーリップにかけて、ボリュームあるエアロがまわり込む様なスタイリングを「DTM風」と呼んでいるんだな。

実は去年の初め頃もR32とかスープラなんかで、DTMルックというものが少し流行ったけど、あれは車のエアロバージョンというよりも、コンプリート的なスタイリングで処理されたものが多くて、マイマイ汎用性というやつが足りなかつた。

でも、今年「イキ」そうなDTM風オバフェン仕様というのは、さらに汎用性が進んだ形にまとまりそうで、サイドステップから一歩突っ込んだサイドメイクとして、確実に流行の中心になるのは間違いないだ。

なにしろ規制緩和が進んで、車検におけるエアロバーツの取り付け基準が日に日に緩く(?)なっている現在、やっぱ一世を風靡したオバーフェンダーが復活しないわけがないよね。

でも、オバーフェンダーの場



J.B.S.(☎0426(85)0763)のニューアコードワゴンは、オバフェスタイルでかなり個性的。

STECKER

予測その19



これはラリーをやってるクルマ。スポンサー関係のステッカーが並ぶわけです。まあ、ここまでやれとは言わないけれど…。

**品よく着飾れば、
レーサーチック!**

CARisma

Transform Car Magazine

Transform Car Magazine

エアロのリリース
が少ない車種や、レー
シングカーのよう「き
めたい人には、「ステッカ
ー・チューン」がおススメ。
ひところ、自分が装着
しておらないバーツのメー
カーのステッカーをベタ
ベタと貼つてあるクルマが
目立つていたが、最近は減
少傾向にあるようだ。これ

今年のリアまわりの演出として
はリニアリングはもちろん装着さ
せる。が、それに加えてリアアン
ダースポイラーへのこだわりもあ
ると思う。最近の傾向としてリア
ビューの演出もフロントと同じ
く、凝りに凝っているパターンが

ファースト(☎082
(274)7155)がリリー
スするモアコラージ
ュの180SXのリアビ
ュー。リアアンダーのディフューザーが
スタイルをグッと引き締める。



AERO

予測その18

**リアのアンダースポイラー、
主流はバットマン
ディフューザータイプだ**

多く見られる。フロント以上にリ
アの方が需要だという意見もある
くらいだ。なんといってもクルマ
を運転しているときに目につく
は前方を走るクルマのテール。だ
から、リアは走っているときに力
をよく見せるものと言い表わせ
るんじゃないかな。

最近のリアバンバースポイラー
の形状にはバットマンディフュ
ーザータイプが多く採用されるよう
になつた。このタイプは確かに空
力という点からも、かなりいい効
果を発揮してくれるわけなんだけ
ど、そんなウソチクよりも魅力的
なのは、この形状が作り出すバン
バースポイラーのカッコよさだ。
手のスポイラーを装着したクル
マは、止まっているときも確かに
カッコイイ。でも、それはあくま
で、普通に歩いていてコレに気付
くことは少ない。やっぱりクルマ
を運転しているときの着座位置が
一番よく見える角度だ。そうなる
と、このspoilerは走っている
ときにカッコよく見せるためのモ
ノであるというのも間違いじや
ない。これからバンバースポイラー
は、バットマンディフューザー¹
タイプでキマリだな。



ウェイルサイド(☎0298(38)1104)のニューウェ
ポン。コンバットシリーズのZにもバットマンタ
イプのディフューザーを装着。

これが導入するか、読者投稿ペ
ージに参加するか、なのだ!
モニターリングのため、連絡部に行
列があるといふ電話もある
(以下)